

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

玉山神学院との交流

二〇一三年度より台湾基督長老教会・玉山神学院との交流プログラムを再開しました。今年度は第一回目の交流として玉山神学院より二人の神学生を迎え研修の旅をしていただきました。

アヌ・タキルンドウンさんとバラアン・スクルマン・タキトウドウさんで、お二人ともブヌン族の方たちです。

お二人は七月五日に来日し、八月二日に帰台されるまで、名古屋〜横浜寿町〜農伝〜大阪（部落解放センター）〜北海道〜名古屋と研修の旅をされました。

神奈川教区寿地区センターでの活動に参加、東京台湾教会での礼拝説教、農伝では授業参加、礼拝説教、歓迎会、修養会に参加しました。また今回はじめて大阪の部落解放センターで研修プログラムを用

校長 高柳 富夫



意していただき、その後北海道教区でアイヌ民族情報センターによりアイヌ民族と台湾先住民との交流、最後に名古屋の身障者施設に宿泊して交流の時を持ちました。今号と次号二回にわたってお二人の実習報告を掲載します。

今回も皆さんからこの交流プログラムのためにたくさんのご献金をいただきました。次号で会計報告をさせていただきます。ありがとうございます。

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

交換実習の感想

二〇一七年七月



Balan Soqluman
林國義

はじめに、神様が私たちに農村伝道神学校との交流実習という素晴らしい機会を与えて下さったことに感謝致します。今夏の経験は、私の人生の中で最も大切な宝物の一つとなりました。もしも信仰を得なければ、きっとこうした経験はできなかったことでしょう。二年前に先輩の報告を聞き、この実習に興味を持ち始め、そしてついに私も日本へたどり着くことができました。

来日前に持っていた日本の印象は、先進的で、礼節があり、秩序が保たれていて、台湾とは天と地ほど差のある所。そして実際にすると、

やはり想像したとおりだと思えました。街は静か、交通は安全で人を脅かすことがなく、会話も穏やかで騒がしい人は見かけません。礼儀正しい佇まいに、カルチャーショックを受けました。

また何より、日本で最も印象に残ったのは、教会で働かれる牧師の姿でした。全てにおいて、頭が下がる思いでした。実習を通して知りましたが、日本では福音を伝えることが非常に困難であり、多くの教会が少人数かつ、高齢化を迎えているというのが現状です。牧師も大半が五〇歳を超え、平均年齢が六五歳に達している、といわれているそうです。神学校も入学者数が減り、このままなら一〇年後には教会の五〇％が無牧となります。多くの教会が宣教師の助けを必要としており、現在の牧師も兼務で牧会をしながら教会を支えています。さらに、日本の教会では一般社会と同様に、長時間の労働が求められ、みな自らへの要求も高いようで、自分を律しながら教会に仕えています。そうした牧師を信徒はとも尊敬して、まるで自分とは「別格」の存在と感じています。そのためか、お互いの関係には距離があり、親しい関係を築くことが難しいようです。今回の実習で出会った牧師はみな思いやりが深く、忍耐強く、特に責任感にあふれていて、それぞれが与えられた現場で心身を尽くし仕えておられる様子が心打たれました。

例えば、横浜の三森牧師、大阪の小林牧師、北海道では三浦牧師や Divan 牧師、他にも出会った多くの方々のことを思い出します。それぞれの方が、社会的な制度から取り残され、排除されている、弱く貧しい人々に、また大切にされていない人々に、イエスの愛を持って接しておられました。その姿に私は敬服し、もつとこうした牧師から学び続けることができれば、と感じました。

私がずっと前から想像していたのは、日本人には会社に忠誠を誓う文化があるということ。人々は個人の名声や生活より、まず会社が優先。会社のために多くの時間を費やし、夜九時を過ぎてもスーツを着たサラリーマンが満員電車で帰宅し、年二〇日間の有給休暇も、ほとんどを返上して会社に仕える日々…。

クリスマスもこうしたストレスと疲労のただ中で生活しているため、休みたい気持ちの狭間で、もがくように礼拝に出席しているのでは

う。にもかかわらず、万一何かあれば、さらに奉仕のため時間に割かねばならない。信仰を持たない者からすれば、全く不条理な生活に見えるのではないのでしょうか。人間関係と社会的責任の両立というのは、福音を伝える上で、一つの大きな妨げとなります。日本人の習慣に照らしてみると、いずれも偏りなく調和を持たせるべきというのが一般的だと思えます。皆そのために色々と思ひ遣い、迷惑をかけるないように配慮しながら生活しています。宗教にはあまり関心を持たれない昨今、こうした社会的背景において日本のクリスチャンが福音を伝えようとすれば、人間関係において大きなストレスを感じることでしよう。もしかしたら、「どうしてもつと肩の力を抜いて、友達を作るように伝道できないの？」と疑問をもつ人もいるかもしれません。しかし日本人は簡単に心を開いてはくれません。深い信頼関係を築くためには、忍耐強く待ち続けなければならぬのです。もしも焦ってしまえば、相手は心を閉ざし、二度と信頼してはもらえないでしょう。

来日したばかりの頃、日本の牧師や信徒は福音を伝えることに消極的であるように感じていました。クリスチャンなのに、あまりそんなことに関心がないように見えました。ですが、だんだんと気づいたのは、日本では向き合うべき多くの課題があり、短期間では福音を伝えられるほどに人々の信頼を得ることは難しいということでした。ですが、そうした中であって、多くの牧師は長い時間をかけて地域と向き合い、見返りを求めず、ただ心身を尽くして、人々がよりよい生活を送ることができるように仕えておられるのです。日本で目の当たりにしたこのような牧師の姿は、私自身のこれからの歩みにおいて、ぜひ生かしてゆきたいものと感じています。

日本は戦争に負けても立ち上がり、なおも他国から称えられる強い国という印象を持っていましたが、日本で一ヶ月を過ごすうちに、そんな日本にも多くの不義があり、問題があることを実感しました。寿地区では簡易宿泊所で暮らす人々に、大阪では被差別部落の人々に、北海道では先住民であるアイヌ民族に出会いました。また女性が直面する不平等の問題についても学びました。このような差別の問題は一体いつまで続くのかと、問いたい気持ちに駆られます。しかし、日本基督教団の牧師や兄弟姉妹によるこれまでの積極的な働きと努力によって、神様はいつの日か必ず状況を変えてくださると信じています。

私たちはこの一ヶ月間、本当に充実した毎日を送ることができました。空気がきれいなか、私のアレルギー性鼻炎も落ち着きました(台湾へ帰った途端にぶり返ししましたが)、素敵な街や美しい自然、快適な新幹線にも乗りました。何よりもみなさんが暖かく迎え、もてなしてくださりましたことに、本当に感謝しています。本当は日本に来てダイエットをしようと思っていたのですがそれは失敗に終わり、何と二キロも増えました!やはりもてなしてくださったみなさんに感謝しなければいけませんね。

この度の実習を振り返り、本当に多くの方にお世話になりました。農村伝道神学校、そして校長の高柳先生、受け入れ先や通訳の方を合わせる一三名にも上ります。農伝の学生とも交流できて楽しかったです。また名古屋ではホームステイ先の村田夫妻が暖かく迎えてくださり、堀川伝道所は歓迎会を開いて下さいました。北海道では農業体験に加えて温泉でもくつろぎました。実習生の私たちを、どこに行ってもまるで客人のようには迎えて下さいました。本当に感謝の言葉が尽きません。どうか神様の祝福が皆様の上にありますように。また私の

新任講師紹介



豊川 慎

二〇一七年の後期より「現代教会史II」を担当させていただきます。前期「現代教会史I」担当の小田部進一先生の代役として、後期科目を担当することになりました。以下、簡単に自己紹介をさせていただきます。

神奈川に生まれ育ちましたが、大学は神学部のある関西学院大学に入学しました。阪神淡路大震災の年でした。神学部ではケルケゴールを専門とする橋本淳先生から特に多くを学び、宗教哲学やキリスト教思想史に関心を抱くようになりました。大学卒業後は、東京基督教大学の共立基督教研究所で学びつつ留学準備をし、カナダのトロントにあるキリスト教術研究所大学院(Institute for Christian Studies)とオランダのアムステルダム自由大学大学院哲学部において哲学とキリスト教思想を学びました。学部生の時にオランダの神学者、アムステルダム自由大学の創設者、そしてキリスト教政を創設してオランダの首相にもなったアブラハム・カイパーについて学び、いつかアムステルダム自由大学で学びたいとの思いを強く抱いたものでした。オランダ留学後、東京基督教大学の助手として大学教育に携わるようになり、今に至るまで一〇年ほど諸大学で非常勤講師としてキリスト教、比較宗教文化論、平和学、キリスト教思想史などの授業を担当しています。日本キリスト改革派湘南恩寵教会の会員(長老)です。

私の学問的関心の一つはキ

リスト教の平和思想です。「近現代教会史Ⅱ」では宗教改革以降のプロテスタント教会とプロテスタント神学思想が近現代世界の形成においてどのような社会、政治、文化的意義を有してきたかというトレチの課題を意識しながら講義を進めますが、他方で近現代教会史における戦争と平和思想という課題をも共に考えたいと思っています。近現代の教会の歩みを戦争と平和という観点からあらためて捉え直すということは、平和の福音に生きようとする日本の教会の課題を考える上でも重要だと思っております。

私はこの夏、宗教改革五〇〇年記念大会とエイズ孤児支援の関連で、南アフリカの教会を訪問します。南アフリカではアパルトヘイト以後の国内の和解構築のために様々な試みがなされ、赦しや正義や和解の意味が問われ続けてきました。南アフリカの教会の歴史の事例からも、日本のキリスト教会は平和や和解の問題について示唆を得られることが多々あるように思います。授業ではカルヴァン以降の宗教改革から学んでいきますが、近現代のアジアやアフリカの教会についても目配りできたらと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

第三八回 戦争責任シンポジウム

四年 井谷 淳

「教会自らがその行為と態度によって自己の内なる政治をこの指針にあわせてゆく」と政治的権力を無化していく事を全然考えてないとしたならば、どうして世は主とその御国の使信を信ずるであろうか。」(カールバルト「キリスト者共同体と市民共同体」『教会と国家』より)。

日本基督教団戦責告白に希薄な部分は合同に到る迄の歴史の検証と清算が十分になされていないことである。戒能信生先生の時代検証によると日本のキリスト教会は明治二〇年代に国家に対する迎合的な潮流を成立させてしまったと言明する。その国家準拠的体質が各個教会に信仰的矛盾を現出させ、戦時下での強権的合体制へと連なり結果として国家弾圧の元での多くの殉教者を輩出し、礼拝司式での皇居遥拝等、信仰的に非整合な状況のまま終戦を迎えた。以下戒能先生の指摘された信仰的罪責のポイントを要約する。

- 1) 国家神道の中心軸である天皇家への崇敬行為Ⅱ偶像崇拜という致命的信仰
- 2) 危機 国家神道との迎合は宗教混淆を生じさせキリスト教的主体を失う。
- 3) 旧約聖書を除外した新約と詩編購読のみの使信、礼拝説教の様式はイエスの預言系譜上の救世主としての立証性、検証性そのものを否定しキリストイエスの存在性そのものを危うくするものである。

を想起させるような、共謀罪(テロ防止法案が国会で可決された昨今、キリスト者の信仰的、社会的責務)キリスト者が取り組むべき社会的課題を考えさせられる一日であった。

二〇一七年度
修養会報告
「アジア神学」の
歴史と展望から
二年 稲益 久仁子

七月一二日修養会一日目のプログラムが明治学院大学の徐正敏先生を講師に行われた。主題は「アジアの状況神学」である。私たちの住むアジアには多くの可能性が秘められている。神学においても研究されていかななくてはならない。その可能性を徐正敏先生からも解いていただいた。その講義から報告するものである。まず、アジアは古い歴史を持つている。深い精神的価値観や地域文化の多様性に富み、人間の豊かさに対するポジティブな思考は未来に大きな可能性を持つている。しかし日本はアジアの上に立っていると考えている。アジア意識が薄弱なのが日本人なのだという。

その理由は「脱亜入欧」でヨーロッパに近づこうとし、天皇制イデオロギーに邁進したからである。

「アジア神学」の中心的内容は多宗教、多文化歴史社会の理解から進めなくてはならない。そこには仏教イイズムや神道イイズム、クリスチャンイイズムといった『主義』イイズムの理解が必須となる。台湾神学のC・S・ソン、シャーマニズムとキリスト教の柳東植、スリランカの民衆神学のA・ピエリスらはアジアの宗教の内とキリスト教の共通点を見いだし実存の中のアジア神学を理解しようとしてきた。

この日本で神学を考えると、クリスチャンイイズム(キリスト教主義)を理解しなければならぬと考える。そのキリスト教主義は同心円的な構造を持つ。中心円はキリスト教信仰、教会、その周りを囲む第二円はキリスト教固有の価値領域とキリスト教特別倫理(隣人愛・敵を愛する・自分を迫害する者のために祈る)、第三円は第二円を包括する円で、キリスト教一般の価値領域と普遍倫理(平和・生命・人権・共生など)がある。この円の構造を理解することで日本の神学が深まると説明された。

また「状況神学」とは土着

化の神学である。そこでは空間と時間の現場がある中で、どこに我々が立っているのかが大切であるとした。その場から聖書を読まないと言学ができないからである。特にイエスを探すことである。イエスがいたら、どのように行動して、どのようにするのか。どうしただろうか？と問い、どのように理解して実践するのかである。すでに頭の中にある概念だけでは足りないのである。活動しなければならぬからである。我々が現場で力を持つて神に協力しなければならぬのである。状況神学の例は、北アメリカの「黒人神学」、南アメリカの「解放神学」、世界的な神学としての「女性神学」、日本の「部落解放の神学」、韓国の「民衆神学」がある。

まとめにおいて徐正敏先生は、私たちの生の生活感覚・諸経験からの報告と、それをめぐる議論を大事にしつつ、その解決に向けた実践的検討を重視していくこと。その問題の解決を伝統的組織神学に求めず、「アジア文脈」として一旦捉え直し、その場で神学することで問題解決の神学的道筋を見いだしていくのが主眼であるとした。

アジア神学の可能性は実に豊かな宝を掘り起こすことになるのだろうと思った。伝統

2018年度入学案内

◆**受験資格**
 (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
 (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆**修業年限**
 ○神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
 ○神学専門教職者養成コース：2年間
 ○神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆**学費**
 入学金 60,000円(入学時のみ)
 授業料 240,000円(年額)
 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆**受験手続**
 次の書類を期日までに郵送または持参する。
 (1) 入学願書(本校指定の書式)
 (2) 履歴書(本校指定の書式)
 (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
 (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
 (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆**入学願書受付**
 第1回 2017年10月3日(火)～11月3日(金)
 第2回 2018年1月5日(金)～2月6日(火)

◆**入学試験日時**
 第1回 2017年11月21日(火)午前9時～午後3時
 第2回 2018年2月20日(火)午前9時～午後3時

◆**会場** 本校教室
 ◆**入学試験科目** (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校
 〒195-0063 東京都町田市野津町 2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
 振替番号
 農村伝道神学校 00160-6-18485
 農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

的組織神学に頼りがちな思考回路から解放され、アジアの多様性に目を向けていく意識の解放こそが必要であると切に考えさせられた。

◆七月三日(月)～四日(火) 神学科同窓会総会。農伝にて。
 ◆七月五日～八月二日。玉山神学院より二人の学生を迎えて交流プログラム。
 ◆七月一二日(水) 午前10時～午後三時。修養会。
 講演…徐正敏氏(明治学院大学キリスト教研究所所長)
 テーマ…「アジアの状況神学」
 ◆同日午後五時。玉山神学院学生歓迎会を行った。

◆七月一三日(木) 修養会の一環として荻窪の東京台湾教会を学生、教師、台湾からの研修生と共に訪問し、歴史と現状、今後の課題について伺い、昼食を共にさせていただいた。
 ◆七月二五日(火)～二八(金) 集中講義…日本宗教史(戒能信生講師)
 ◆七月末より九月半ばにかけて下記の通り夏期実習を行い学生を派遣した。
 松田拓実…教会実習(川崎戸手教会) / 吉野結…教会実習(名寄教会、志布志教会) / 鳥羽加陽子…教会実習(名古屋地区諸教会) / 稲益久仁子…社会実習(部落解放センター) / 上杉理絵…社会実習(寿アルク) / 原弓子…社会実習(寿地区センター) / 山田原野…教会実習(水口教会) / 松永明夫…社会実習(メノヴィレッジ)
 ◆九月二七日(水) 実習報告会を行った。

◆九月二八日(木)～二九日(金) 集中講義…牧会心理学(大西秀樹・石田真弓講師)
 ◆一〇月三日(火) より後期授業が開始される。
 ◆一〇月に行われる神学校日の礼拝には現在のところ下記の教会からの依頼を受け、それぞれ学生を派遣する。(申し込み順)
 埼玉和光教会、上大岡教会、横浜港南台教会、六角橋教会、大泉教会、上星川教会、飯能教会、川崎戸手教会、まぶね教会、三鷹教会、小諸教会、船越教会

◆一〇月二二日(土) 農伝デー オープンキャンパス
 午前10時～午後2時
 午前10時半～11時半
 講演会…「祈りと霊性の旅」青木義子氏(礼拝堂にて)

◆お知らせ
 農村伝道神学校はR・ウィットマー氏を次期校長として迎えるが、校長住居をどこにするかを検討している。
 日本基督教団教師養成制度検討委員会から来訪したいとの連絡があった。開かれた会としてならば来訪を受けると返答したが、そのような形では訪問できないと返答があった。理由は定かではない。
 二〇一七年度第二回理事会・評議員会が一二月二八日に開催される。(書記 横野朝彦)

